

会議の名称

第7回 南あわじ市ケーブルテレビ自主放送番組審議会

開催日時

令和8年9月2日（土） 午後2時 ～ 午後4時

開催場所

南あわじ市役所 本館3階 304・305 会議室

出席者

7名（敬称略）

稲本保男（市文化協会会長）、市川富夫（市老人クラブ連合会会長）、

杉本直美（市商工会女性部長）、川添英二（市連合自治会理事）、清水真澄（市連合PTA理事）、

佐藤祥子（女性農業者）、橋本浩嗣（公募委員）

※ 欠席者：中尾隆太（市スポーツ推進委員会委員長）、西畠敏子（市消費者協会会長）

事務局

南あわじ市副市長 木田博仁（途中退席）、企画政策監 勝見 哲

企画部付部長（シティプロモーション担当） 川上洋介

シティプロモーション課 課長 土井孝行、プロモーション室長 高柳智美、映像係長 中野尚美

審議事項

- (1) シティプロモーション課の取り組みとケーブルテレビの役割
 - (2) 前回の意見に対する回答
 - (3) 当日視聴番組および事前視聴番組へのご意見等
 - ① 番組の視聴
 - ② 視聴番組へのご意見
 - (4) 番組改編について
 - (5) その他
-

会議の概要・内容

1. 開会

2. あいさつ

- 木田副市長から開会の挨拶

審議委員会の役割を説明。番組制作にあたっては、「南あわじ市らしさ」を大切にするとともに、幅広い年代の皆さまに関心を持っていただける内容、市民の皆さまに知っておいていただきたい情報をお届けできるよう心掛けています。皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

3. 委嘱状交付

4. 会長及び副会長の選出

委員の互選により稲本会長、市川副会長が選出された。

5. 意見交換事項（審議事項）

(1) シティプロモーション課の取り組みとケーブルテレビの役割

高柳室長、中野係長から説明

（委員）

「ふるさと音頭」について、コロナ禍以前は小学校の運動会等で実施されていたが、コロナ禍以降は無くなっていると思う。せっかくの市の踊りだが、子供たちはふるさと音頭を知らないのではないかと思った。みんなで踊ったのは楽しかったので、今日久しぶりに見たことをきっかけに自分で何か考えたいと思った。

（事務局）

ありがとうございます。

（委員）

保育園の食事風景の放送について、未就園児（未入園者）世帯に対する保育園のPR（集団生活の魅力伝達等）も目的としているのか。

（事務局）

本番組は、在園児の日常の姿を家族に届けることや、高齢者を中心とする市民に温かい気持ちになっていただくことを主な目的として制作している。一方で、未就園児世帯に対しても保育園は楽しいところであるとか、集団生活の中でも子供たちが暮らしていけるんだというPR効果も期待できるため、今後は保育所の入所申込み時期に合わせた放送など、新たな視点や目的を持った番組編成・放送に努めたい。

（委員）

CATV 開局時（平成 12 年頃）と異なり、現在は SNS をはじめ、多様なメディアが普及している背景を踏まえ、情報発信手法の工夫が必要と思う。「知る」というのは市民を信じているからその表現になると思うが、「知る」前に市民に『知らせる』（PUSH 型）がまず大事。知らせないとなかなか 12 チャンネルまで辿り着かないと思う。そのため「知る」の前に『知らせる』が重要。私は今、自治会長をしていて自治会でゴミの分別当番を回しているが、ゴミ収集日の事前通知はとてもありがたい。LINE で今週はこんなものを流しますとお知らせをしてくれたら興味のある人は 12 チャンネルに行くと思う。例えば、ネパールの洪水といった遠いところの情報は民放・ネットニュース等ですぐに入ってくるが身近な情報は気にしていなければなかなか入ってこない。地域に密着した情報を発信しているのがケーブルテレビ（CATV）の良さなので、そこは考えていただけたらと思う。

（事務局）

LINE（ライン）での周知について、特定の番組については SNS で放送案内に取り組んでいた。いろんな情報がどんどん入ってくると見逃されてしまうのではないかとということもあり、定期的な配信は止めていたが、先月から LINE で周知をし、ホームページに誘導をし始めている。昔はテレビが主体だったが、今は多様な情報ツールがあるので、それらの特性を活かして、まずは 12 チャンネル（コミュニティチャンネル）に合わせていただくよう誘導・工夫に努めていきたい。

（委員）

最近は災害が多い。南あわじ市は定点カメラがあり、川の状態を流しているのが多い。データ放送の「防災監視ライブカメラ」でどこの川がどういう状態になっているかを探して見れる。ただ、通常の川の水位がどれくらいかは分からないと通常時と危険時を比較するのが難しい。集中豪雨の際に緊急番組を作ってもらい定点カメラを順番に番組として映して、1 つずつ天気予報みたいに説明を加えることはできないか？ 緊急時は 12 チャンネルを見たらそれが流れていて、探さなくてもそれを優先して台風が過ぎるま

で、身近な状況を1時間、2時間に1回流せないか？説明はテロップでもいい。そういうものがあれば見る人の確率も増えると思う。普通の民放テレビでは近くまで来ているが淡路島をどれだけ映しているかというとほとんど抽象的である。それを具体的に「ここ」の川はどういう状態かとすぐに確認できるように、せっかく定点カメラがあるので活用できないか。

(事務局)

防災・減災情報の提供は市民の安全・安心に関わる最重要事項の1つと認識している。過去、台風が接近した大雨時にはコミュニティチャンネルへカメラ映像を強制的に差し込んで放送してきた。人的リソース等の制約からナレーション等の付与は非常に難しいが、カメラ映像の放送切り替えは対応可能である。平時からの状況把握の重要性も踏まえ、放映の時間帯や手法、夜間撮影の視認性向上など技術的課題を含め、カメラの所管課である危機管理課と協議・調整を行い、具体的な実施に向けて検討を進めていく。

(委員)

「ふるさと音頭」の放送は高齢者にとって大変有意義で評価したい。非常に良い放送なので嬉しい。あとは「健康志向」を何らかの形で添えてPRしてほしい。ただ「これに参加してください」や「家でまねてやってください」ではなく、『この踊りにはこういう健康効果がありますよ』とか『高齢者にとって認知症予防になりますよ』などと効果を付け加えると良いと思う。

(事務局)

「ふるさと音頭」については、健康増進のツールとしての側面と、市民共通の文化（音楽を聴けば自然と体が動く状態）という両面から捉え、現在は「みんなで踊ろう」のタイトルで周知・定着を図るため繰り返し放送を行っている。健康面に関する追加情報については、専門職による解説コメントを番組内に盛り込むなど内容の拡充が可能か、関係部署と協議・調整を進めていく。

(2) 前回の意見に関する回答

① 給食センターの紹介番組を放送してほしい

→ 調理作業中の調理場は衛生面の関係上、部外者の立ち入りはできない。そのため教育委員会から提供された映像を放送している。地元の食材ハモを使った給食の動画である。(後程、一部を視聴していただいた。)

② 視聴率は把握できないのか

→ 今年1月より、データ放送のシステムを使った視聴数を取得するツールを導入した。テレビがインターネット回線につながっていることが条件だが、いわゆるスマートテレビのデータを取得している。1月～8月で毎月平均約2,500台のテレビデータを取得。今年1月以降の放送において、視聴数の多い番組やチャンネル滞在時間など、見られている時間やコンテンツの調査を行い、今後の取材や放送番組の検討に活用していく。ただし、好まれているものだけを放送するのも違うと考えている。市民に届ける必要のある情報も届けていく必要があると考えている。

③ 放送内容や放送時間の周知に LINE を活用すべき

→ 昨年までは一部の番組を SNS で情報発信することにとどまっていたが、昨年 LINE (ライン) での案内を開始した。LINE というプッシュ型の情報発信媒体により情報を受け取っていただき、チャンネルを合わせるきっかけづくりのひとつとして取り組んでいる。また、これは市公式 LINE アカウントの登録、受信設定が必要であり、シティプロモーション課全体で市公式 LINE アカウント登録の普及・受信設定について、イベント会場などに足を運び取り組んでいる。

④ 淡路医療センターに関する情報を放送してほしい

→ 洲本市の淡路島テレビジョンが既に兵庫県立淡路医療センターと連携し、年に2～3本の番組を制作し

ている。この番組を南あわじ市でも放送している。「特集アワー 健康のススメ」という番組で救急医療センターの取り組みや現状を伝えるもので、直近では7月に放送した。（後程、一部を視聴していただいた。）

（委員）

公式 LINE における長文配信は視認性を損ねるため、各情報媒体の特性に応じた役割分担と使い分けが必要である。市民は受動的になっているので、LINE は入り口としてできるだけ簡単なお知らせだけ送って、あとは詳しくは CATV や広報紙、ホームページを見てくださいと誘導したら良いと思う。媒体にはそれぞれ特徴があるので、LINE で長文を書かれても見るのが嫌だし、LINE に動画を載せるよりテレビで落ち着いて見る方が良いと思うので、使い分けを考えてほしい。

（事務局）

各情報媒体の特性を十分に理解し、効果的な活用・連携に努めていく。併せて、市公式 LINE アカウントの登録促進および受信設定の普及推進に取り組む。

（委員）

審議会での前回意見に対する事務局回答について、市ホームページへ掲載してほしい。口頭説明のみでなく、回答の詳細公表や番組視聴数の掲載を検討してほしい。

（事務局）

議事要旨自体は市ホームページに掲載しているが、前回意見の具体的対応状況や回答詳細の公表については、提示手法を含め調整・検討したい。番組視聴数は従来内部活用にとどまっていたが、公表については表示方法を含めて検討させていただきたい。

(3) 当日視聴番組および事前視聴番組へのご意見等

① 番組の視聴

- 1 ニュース 地域ぐるみで活性化！淡 AMA 軽トラ市
- 2 特集 市政だより Minamiawaji City（4月号）地域に元気を！チャレンジパワー ～地域の担い手大交流会～
- 3 特集 ごはんですよ ～志知幼稚園～
- 4 特集 知っ得！ええ農情報 ～女性農業者への支援について～
- 5 撮っておき 2026 年南あわじ市二十歳の集い ～愛～
- 6 朝の体操 南あわじ市お達者音頭
- 7 南あわじ市ふるさと音頭
- 8 インフォメーション① 南あわじ市観光動画
- 9 インフォメーション② 子供たちに届けたい地域の食材 ～ハモフライ～
- 10 特集 心に余裕 子育てに笑顔 ～毎日ががんばるあなたに“頼る”という選択肢～
- 11 ニュース・インフォメーション③ それ、市役所職員をかたる詐欺（詐欺防止）

② 視聴番組へのご意見

（委員）

「子育て特集番組」は私たちの世代なら CATV を見るより SNS 等の方が良いと思うが、これは YouTube やホームページに掲載する予定はあるか？私の周囲に移住者が多く、「ちょっとでも預けていいのかな？」といった情報を取りにくい人がいる。特に途中から移住した人は横のつながりが少ない。保育園に行くと

横のつながりができるが、できるまでは情報を得にくい。移住して子育ての良さを認識してもらえれば、移住したいと考えている友達に口コミで良い評判を言ってもらえると思う。こういった番組は住みよさや子育てしやすさ、楽しい地域ということを発信してもらうためには良いと思うので、島外に広がって南あわじ市への移住者が増えたら良いと思う。

（事務局）

出演者の肖像権等に関する許諾確認等の課題を整理したうえで、YouTube への動画掲載や市ホームページ・SNS での案内・拡散を検討する。あわせて子育て支援制度等を所管する関係部署とも連携し、情報が届きにくい層へ確実に届けるための発信手法や周知の工夫を模索する。

（委員）

良い番組だと感じた。ただ、同じ番組タイトルが頻繁に放映されている印象がある。私はホームページ等で内容と日時を確認してピンポイントで視聴しているが、同一番組の複数回放映（リピート放送）は視聴機会の確保にも繋がる側面もあると思う。CATV は一般民放とは違う役割を持っていると思うが、視聴者目線に立った番組編成やリピート放映のあり方についてどう考えているか伺いたい。

（事務局）

すべての提供情報が市民にとって必要であるものとの意識のもと、幅広い世代・多様なニーズに応える番組制作に努めている。同一番組の複数回放映は、市民の多様な生活スタイルや他局放送時間帯を考慮し、どの時間帯でも視聴できるよう配慮した編成上の工夫である。

（委員）

市は様々な事業をしていると思うが全事業を網羅して放送しているわけではない。取材依頼をすればいいのだろうが、今市内で何が行われているのかの情報収集は難しいと思うが、放送されているのは一部だけ

のように思う。できれば、より広く多くの市民の活動を流してあげた方が良いと思うので広く取材をしていただきたい。市民に多く知られることはうれしいことなので、例えば老人クラブ等だと「これだけ活動していますよ。できるだけどうぞ参加してください」と呼びかけたい。できるだけ応援をしていただくと PR ができるのでありがたい。

(事務局)

すべての事業・活動を網羅して放映することは困難であるが、より多くの市民が関心を持てる多様な取り組みを取り上げられるよう、情報収集および番組制作に努めていきたい。

(4) 番組改編について

(委員)

私は週 5 回働いているので、以前の番組表だといつ何をやっているか分かりにくかった。今後の番組表では恐らく見る機会を逃しにくくなると思う。できれば、アンコール放送（再放送）の実施予定日時について、番組末尾へのテロップ表示等による周知・案内を要望する。

(事務局)

アンコール放送（情報番組は 2 週間後、とっておきは翌週等）に関する放送案内について、番組末尾での周知等を含め工夫・検討を進めたい。あわせて、テレビ画面上の EPG（電子番組表）の活用を促すとともに、EPG における番組タイトルや内容表示の適正化に向けた改善に取り組む。

(5) その他

(委員)

全国の情報を聞くと、「商売をしていて CATV で紹介してもらった」という話を聞く。地元のお店紹介を
してもらえる番組があると嬉しい。地元の皆さんに買い物をしていただきたいというのを感じているこ
と。今はネット販売が広がってどこが競合店か分からない部分が大きいの、地元のお店を紹介してくれ
る番組があればすごくうれしいと思う。消費者の立場としては、「あのお店は何を売っているんだろう？」
という思うことはあるが、知らないお店に入っていくのに気が引ける時がある。なので、CATV でこうい
うお店でこういう物を販売しているということを紹介してほしい。地産地消・域内消費の促進や地域振興
券の活用、地域経済の活性化につながるため、積極的な紹介を求めたい。また、YouTube 等へのアーカイ
ブ掲載により、情報発信の継続的な効果も期待できる。

（事務局）

ケーブルテレビは市営のため、また広告の関係もあり営利目的のお店紹介は難しいが、商工会等と相談・
連携してあくまで地域を盛り上げるという観点で何かできたらと思う。また、淡路島の特産品を使ったグ
ルメ事業（島サラダフェアや淡路島サクラマスグルメ等）の参加店舗紹介をはじめ、飲食以外の分野につ
いても試行可能な手法を整理し、地域活性化に寄与する取組を模索していく。

（委員）

自分の実際の視聴実態として短時間（10～15 分程度）の断片的な視聴にとどまるケースが多いことを踏ま
え、放送内容や番組概要が一目で把握できる分かりやすい番組表（新聞のテレビ欄のような概要付き番組
表）の作成・提供を要望する。

（事務局）

視認性・利便性の高い番組表の整備は従来からの課題と認識している。市ホームページ上において、新聞
のテレビ欄のような放送内容が確認できる番組表の作成・掲載について、今後の番組改編期に合わせて検

討を進めていきたい。あわせて、テレビ画面上の EPG（電子番組表）の活用を促す。

（委員）

CATV の番組とは話が少しずれるが、シティプロモーション課関連の会なので話をさせていただきたい。

ホームページについて、各課の HP のお問い合わせに入力したが返信が来ないことがあった。1 カ月たっても返事が来ない。その課は 20 人くらいの組織なのに、誰も見ていないのか？市役所ではいろんな媒体を使って便利にしているが、職員が媒体を使い切れていないと思う。あと、CATV の免除申請をスマホから送った際には受付の自動配信の回答はあったが、その後職員がちゃんと手続きをしているのか不安を感じた。本当に職員から「見ました」という回答があれば安心するが、アプリの使い方とかその辺もシティプロモーション課で各課に指導をお願いできないか。

（事務局）

ホームページ管理部署として、問い合わせに対する確実な回答・対応の徹底について庁内インフォメーション等を通じて注意喚起・指示を行う。また、何かの申請をされて自動で回答があり、それ以降の動きが不安というご意見について、旧情報課と連携し、市民の皆さんに不安を感じさせないような仕組みを考えたいと思う。

5. 閉会

- 勝見政策監より閉会あいさつ

本日はお忙しい中、慎重審議いただきありがとうございました。皆さんから頂いた本日の貴重なご意見を踏まえ、地域づくりに資する番組制作を目指していく。

以上